



平成23年11月22日(火)
宮城県水産技術総合センター
養殖生産部・普及指導チーム

ノリの初入札会が開催されました!

東日本大震災でノリ養殖業は、海面の養殖施設が流失し、陸上にあった全自動海苔製造機も半数以上が壊れ、当初は今期の再開が危ぶまれていました。しかし、その後、約60経営体が再開を決め、9月下旬から約45千枚の種網を採苗し、そのうち約16千枚を使用して秋芽生産に向けて養殖を行ってきました。当センターでは、9月から松島湾等で生育環境調査を行い、ノリ養殖通報を発行し、生産者の皆様に必要不可欠な情報を提供してまいりました。こうした取組のかいもあって、今年の秋芽は、栄養塩に恵まれた上、赤ぐされ病の発生もなく順調に推移し、10月31日に浦戸支所を皮切りに摘採が始まりました。そして、11月21日に宮城県漁業協同組合塩釜総合支所において、待ちに待った本県産乾海苔の初入札会が開催されました。

約50社200人の買受人が参加した初入札会は、上場枚数3,436千枚(前年度比14%)、入札金額52,127千円(同20%)、平均単価15.17円/枚(同144%)という結果になりました。今回の入札会は、最高値が七ヶ浜支所花淵浜産の黒優等級の35円/枚で、最安値の物でも10円/枚となり、例年と比べ高値でした。また、良品の目安となる優及び優Aの占める割合は約47%で、こちらも例年以上の成績となりました。

年内の入札は12月16日、12月26日に行われる予定です。今後、仙台、七ヶ浜、宮戸、石巻湾の各漁場でも生産が本格化しますので、12月から上場枚数は増える見込みです。

なお、年明け後の入札日は、冷凍網の生産状況を見て決定されます。



乾海苔の初入札会の様子



上場された高品質な乾海苔